

報道関係者各位
2026年9月1日

住友生命が「防災の日」に地域防災へ貢献、 都内3カ所の消火栓標識に協賛看板を設置

消火栓標識株式会社（所在地：東京都中央区／代表取締役：毛利 綱作）は9月1日の「防災の日」に、住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）の協賛看板を、東京ミッドタウン周辺の消火栓標識に設置しました。看板利用料は消火栓標識の維持管理費に充てられるため、協賛そのものが地域の防災インフラを支える社会貢献となります。



■消火栓標識とは

「消火栓標識」とは、火災の際に速やかに水を供給できるよう、地下にある「消火栓」の位置を示す標識です。消火栓標識は全国に約12万本あり、主に民間企業によって維持管理され、その費用は「赤い円形の表示板」の下にある横長の協賛枠による看板利用料で賄われています。

消火栓標識の設置と適切な管理が進めば地域防災に役立ちますが、協賛枠の存在自体の認知度が低く、利用が進んでいません（東京都内では約80%が未利用）。現在は各企業の努力でなんとか維持管理ができていますが、将来的に管理が難しくなる可能性があります。



■昼間人口が集中するエリアだからこそ

今回、協賛看板を設置したのは、東京ミッドタウン周辺の消火栓標識です。中央区は昼間人口が夜間人口を大きく上回るエリアであり、大規模災害時には多くの帰宅困難者の発生が想定されています。オフィス、商業施設、住宅が近接するこうした地域では、初期消火の迅速さが被害の拡大を左右します。

土地勘のない来街者が多いエリアであることも、消火栓標識の存在意義を高めています。日常の風景に溶け込む標識が確実に維持されていることは、その場に居合わせた誰にとっても安心につながります。



■「防災の日」に設置した意味

9月1日の「防災の日」は、関東大震災を教訓に、災害への備えを見つめ直す日として定められています。生命保険は「万への備え」を支える事業です。その備えを個人の生活だけでなく、地域の防災インフラにも広げる取り組みとして、今回の設置は実施されました。

多くの人が毎日その前を通りながら、消火栓標識の存在を意識する機会は多くありません。防災月間に地域へ協賛看板が掲出されることは、まちの中にある防災インフラに目を向けるきっかけにもなります。

消火栓標識株式会社は今後も、地域に根ざした企業・団体の皆様とともに、防災インフラとしての消火栓標識の維持管理と認知拡大に取り組んでまいります。

■会社概要

企業名：消火栓標識株式会社
代表者：代表取締役 毛利 綱作
所在地：東京都中央区入船2-2-2PMO八丁堀V4F
事業内容：消火栓標識の設置・維持管理・広告業
URL：<https://syokasen.co.jp/>

企業名：住友生命保険相互会社
代表者：取締役 代表執行役社長 高田 幸徳
本店所在地：大阪市中央区城見1-4-35
事業内容：生命保険業
URL：<https://www.sumitomolife.co.jp/>